

南アフリカ為替週報

2022 年 1 月 13 日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去 3 週間の動き＞

USD/ZAR: 15.295～16.0825
ZAR/JPY: 7.19～7.50 (参照値)

過去 3 週間の南ア・ランド相場は、年末にかけて頭打ちから反落、年明け以降は一方的な堅調推移で、12 日までに対ドル、対円共に 11 月 16 日来的高値を更新した。南ア市場は 25～27 日が休場で、堅調気味の膠着を続けた 23 日、24 日から、連休明けの 28 日はランド急落となった。ただ、同日発表された南ア 11 月貿易収支は予想を大幅に上振れる黒字を計上、前後してオミクロン株に翻弄されたコロナ感染状況にもはつきりと「最悪期の脱出」は読み取れたはず。現地株式市場にも、国際市場にも、ランド売りを促すような値動きは見つけられなかった。ランド急反落の要因が定かでなかったように、年明け以降のほぼ一方的なランド堅調の要因もこれと言ったものは見つけられなかった。年末年始でニュース自体がまばらで、要人発言などもほとんど聞かれなかった。上述の通り、南ア貿易収支が想定以上の黒字水準を維持したこと(経常収支の上振れを予想する根拠になる)やオミクロン株の蔓延が収束に向かいつつある事実を、敢えてランド押し上げ要因と読むことはできただろう。並行して、米連銀金融政策を巡る観測(後述)が市場の思惑を集めたものの、材料としてはむしろドル押し上げ要因と読めたはずで、ランド堅調とは平仄が合わなかった。

＜過去 3 週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
12/28	12:00	貿易収支(ZAR)	11 月	+35.8bn	+24.8bn	+27.7bnr
12/30	12:00	財政収支(ZAR)	11 月	-21.8bn	-10.3bn	-36.8bn
12/31	6:00	民間部門信用(前年比)	11 月	+2.46%	+1.30%	+1.29%
1/7	6:00	総外貨準備高(USD)	12 月	57.59bn		57.62bn
1/10	12:29	自動車販売統計(前年比)	12 月	-3.5%	+4.5%	+6.6%
1/11	11:00	製造業生産(前年比)	11 月	-0.7%	-3.6%	-8.5%r

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう 1 週間の見通し＞

USD/ZAR: 15.000～15.450
ZAR/JPY: 7.45～7.60

向こう 1 週間の南ア・ランド相場は、もう一段の上昇を予想。ランド高を見込む最大の要因は純粋なテクニカル要因で、ドル/ランドが 15.50 を割り込んだから(ランド上昇)。15.50 は 11 月に 2 度天井を打ち、その後上抜けしてからは、年末に底値を形成した、所謂ピボット水準。同水準を明確に下抜けしたことで、目先はドル/ランドの下値(ランド高値)を試しに行く可能性が強まったものと見込む。実のところ、米連銀金融政策に関しては、足元、急速に「3 月利上げ」「年内に 4 回の利上げ」の織り込みが進みつつある。同銀高官が相次いで 3 月利上げに前向きな発言をした上(注)、非農業部門雇用者数の増加こそ予想を下回ったものの、強い賃金上昇圧力を示した米 12 月雇用統計(7 日)、予想通りではあったものの 39 年ぶりの高水準に上昇した米 12 月 CPI(12 日)など、米経済指標も積極的な利上げ実施を裏付ける内容となった。にもかかわらず、ドルが対ランドでピボット水準を割り込み、ユーロや円など主要通貨に対しても全面安に振れている値動きに、ドルの地合の悪さを見る。南ア固有の要因では、7 日、ズマ前大統領時代の「国家の私物化」疑惑に関するゾンド判事の報告書の(3 部構成の)第 1 部が公表されたことが注目されたが、問題は同報告書を根拠に、今後、どのようにして政権内外から汚職を排斥していくかにあり、「横領規模は 1,000 億ドル」などといった詳細には、今更大きな意味は感じられない。オミクロン株の爆発的な蔓延で、ワクチン接種率の伸び悩みにもかかわらず、今や国民の 8 割超がコロナウイルスに対して免疫を確保したとの報告(24 日)は、南アの経済活動復活に向けて前向きに受け止めることができる。

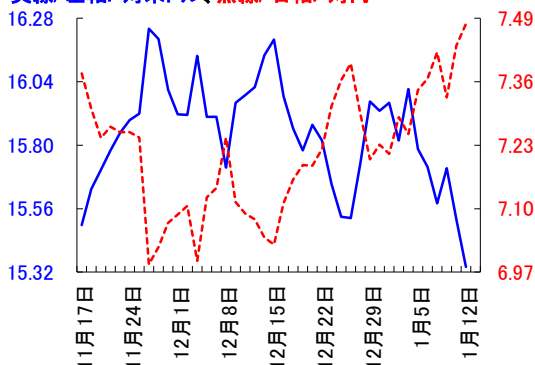
＜向こう 1 週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
1/18	9:30	鉱業生産(前年比)	11 月			+2.1%
1/19	8:00	CPI(前年比)	12 月		+5.7%	+5.5%
	11:00	小売売上高(前年比)	11 月			+1.8%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

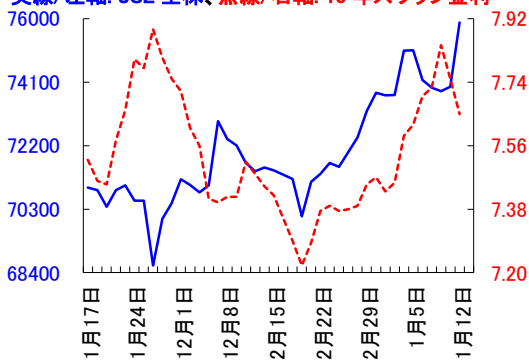
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE 全株、点線/右軸: 10 年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レポ金利)		3.50%
長期金利(10 年スワップ)	1 月 12 日	7.650%
株価指数(JSE 全株)	1 月 12 日	75884.75
成長率(GDP/前年比)	Q3	+2.9%
経常収支(ZAR)	Q3	+226bn
失業率	Q3	34.9%
消費者物価(前年比)	11 月	+5.5%
小売売上高(前年比)	10 月	+1.8%
製造業生産(前年比)	11 月	-0.7%
鉱業生産(前年比)	10 月	+2.1%
貿易収支(ZAR)	11 月	+35.8bn
金価格(ロンドン 17:00)	1 月 12 日	1824.69

あけましておめでとうございます。本年もよろしく願います。

(注) セントルイス連銀ブラード総裁(6 日、12 日)の他、リッチモンド連銀バーキン総裁(10 日)、アトランタ連銀ボスティック総裁(10 日)、クリーブランド連銀メスター総裁(11 日)など

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。